



令和6年度の働き方改革通信「Smile」



今年度のSmileも、働き方改革を推進し、教職員のやりがいも感じられる好事例など、教職員の皆さんの参考になる情報をお届けします。また、教育委員会事務局の取組も、更に積極的に発信していきますので、引き続き、学校と事務局とが両輪となって進めていきましょう！

Topic

①

報告

第4期横浜市教育振興基本計画・柱6「いきいきと働き、学び続ける教職員」

働き方改革に関する指標の令和5年度取組状況



4期計画柱6の指標の令和5年度実績を報告します。「2か月連続80時間超の人数」「19時までに退勤する教職員の割合」とも、令和4年度より改善の傾向が見られました。しかし、それぞれの目標達成には道半ばの状況です。働き方改革については、今後も総合的に進めることや焦点を絞った個別具体の支援を充実させるなど、取組を更に加速させていく必要があります。

4期指標

2か月連続で時間外在校等時間が月80時間超の教職員

目標値

毎年度
0人

	人数
平成30年度	3,995人
令和元年度	3,297人
令和2年度	2,487人
令和3年度	2,798人
令和4年度	2,608人
令和5年度	1,970人

638人減

※年度内に一度でも該当する教職員の実人数を集計
※令和元年度10月までは高校分を含まない数値

令和5年度の人数の校種別の内訳

	令和5年度
小学校	407人
中学校	1,412人
特別支援学校	11人
高等学校	140人
全校種	1,970人

【参考①】時間外在校等時間 月80時間超の教職員の割合

R5年度平均値

4月～3月

全校種平均

6.1%

小学校

2.1%

中学校

15.2%

特別支援学校

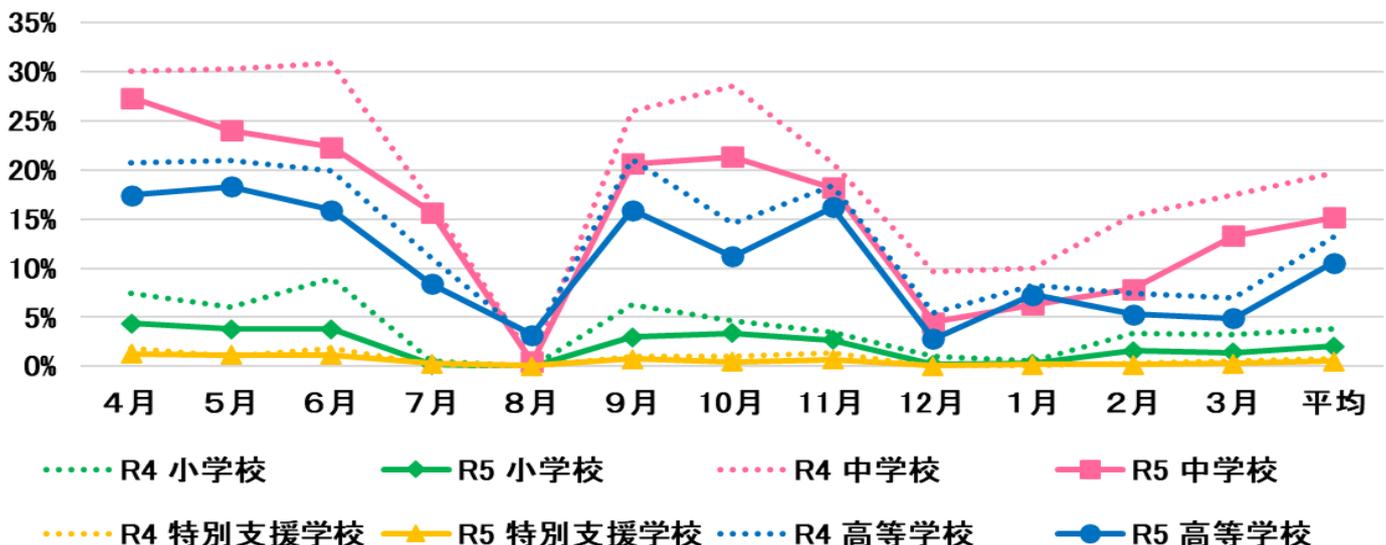
0.6%

高等学校

10.6%

R4年度平均値 全校種平均：8.6% 小学校：3.8% 中学校：19.6% 特別支援学校：0.8% 高等学校：13.1%

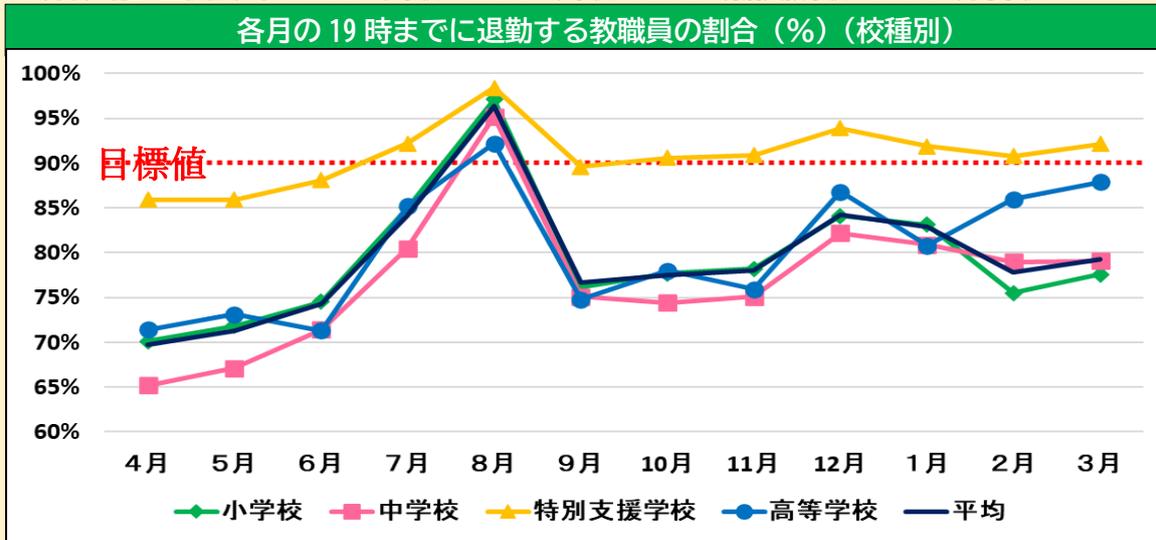
各月の月80時間超の教職員の割合(%)：令和4年度と令和5年度の比較(平均・校種別)



R5年度平均値
4月～3月

全校種平均 **79.4%** 小学校 79.3% 中学校 77.2% 特別支援学校 89.5% 高等学校 78.7%

R4年度平均値 全校種平均：76.2% 小学校：75.8% 中学校：73.9% 特別支援学校：89.5% 高等学校：78.7%



【参考②】年次休暇10日以上取得者の割合

	R4年度	R5年度
割合	90.5%	90.0%
平均取得日数	18.4日	17.3日

【年次休暇の主な取得時期の内訳】

令和5年8月…5.8日(夏季休業)
12月～1月…3.9日(冬季休業)
令和6年3月…2.1日(春季休業)
※夏季休暇取得日数…4.9日

※振替取得率はR4年度が43.9%に対し、R5年度は48.9%で、5ポイント上昇しています。

Topic

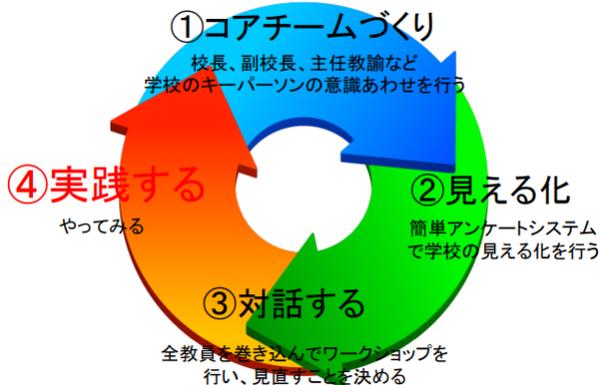
②

2年目校長研修で働き方改革のプロセスを学び、実践すると・・・！！



2年目校長研修では、「働き方分析ツールのデータをもとに教職員同士が対話をし、改善策を実践する」というプロセスを学びます。これをサーベイフィードバックといいます。昨年度の2年目校長研修受講者がいる学校の「令和4年度と令和5年度の時間外在校等時間の年度平均」を比較してみると、時間外在校等時間が減っている学校が多いことが分かりました。この取組の広がりにより、働き方改革が推進されることが期待されます。

サーベイフィードバック

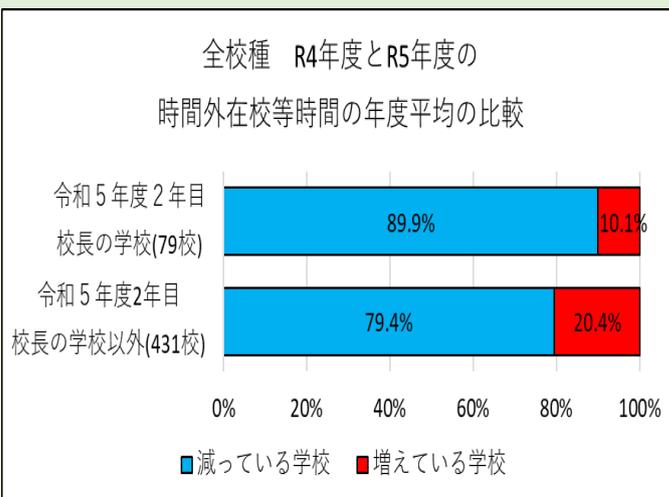


成果をあげられる仕組み：A小学校の取り組み

学校の現状を、データをもとにそれぞれが捉え、共通理解を図りながらより良い学校について考え、実践につなげられたのがとても良かった。働きやすさ「感」はより高まっていると思う。



研修を受講した
校長先生



働き方分析ツールを活用したいと考えている学校は、令和6年4月26日付通知【教教育第90号】をご確認いただくか、教職員育成課にお問合せください！

お知らせ

